

## 4 ( '92 岡山大 )

【難易度】…標準

空間の点  $O$  を中心とする半径  $1$  の球面を  $S$  とし,  $S$  上の相異なる  $3$  点  $A, B, C$  は点  $O$  を含む  $1$  つの平面上にあるとする. 点  $P$  が  $S$  上を自由に動きまわるとして, 次の問いに答えよ.

- (1)  $\triangle ABC$  が正三角形のとき  $|\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2$  は,  $P$  の位置によらず一定であることを示せ.
- (2)  $\triangle ABC$  が  $\angle C = 90^\circ$  である直角三角形のとき,  $|\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2$  の最大値と最小値を求めよ.

【テーマ】: 位置ベクトルの応用

## 方針

点  $O$  を始点とした位置ベクトルを考えます.  $\vec{OA} = \vec{a}$  などと置いて考えるとよいでしょう.

## 解答

(1) 【証明】

$\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}, \vec{OP} = \vec{p}$  とおくと,

$$\vec{PA} = \vec{a} - \vec{p}, \vec{PB} = \vec{b} - \vec{p}, \vec{PC} = \vec{c} - \vec{p}$$

と表せるので,

$$\begin{aligned} |\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2 &= |\vec{a} - \vec{p}|^2 + |\vec{b} - \vec{p}|^2 + |\vec{c} - \vec{p}|^2 \\ &= |\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{p} + |\vec{p}|^2 + |\vec{b}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{p} + |\vec{p}|^2 + |\vec{c}|^2 - 2\vec{c} \cdot \vec{p} + |\vec{p}|^2 \\ &= 6 - 2(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} \quad (\because |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = |\vec{p}| = 1) \end{aligned}$$

である. ここで  $\triangle ABC$  が正三角形であることから, 点  $O$  は  $\triangle ABC$  の外心であり, かつ重心でもあるから,

$$\frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3} = \vec{0} \quad \therefore \vec{a} + \vec{b} + \vec{c} = \vec{0}$$

よって,  $|\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2 = 6$  となるので, 点  $P$  の位置によらず一定であることが示された (証明終)

(2) 題意より, 辺  $AB$  は球面  $S$  の直径となる. よって,  $\vec{a} + \vec{b} = \vec{0}$  であるから, (1) から

$$|\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2 = 6 - 2\vec{c} \cdot \vec{p}$$

を得る. ここで,  $\vec{c}$  と  $\vec{p}$  のなす角を  $\theta$  ( $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ ) とすると,

$$\vec{c} \cdot \vec{p} = |\vec{c}| |\vec{p}| \cos \theta = \cos \theta \quad (\because |\vec{c}| = |\vec{p}| = 1)$$

であり,  $-1 \leq \cos \theta \leq 1$  であることから,

$$-1 \leq \vec{c} \cdot \vec{p} \leq 1$$

よって,

$$-2 \leq -2\vec{c} \cdot \vec{p} \leq 2 \iff 4 \leq 6 - 2\vec{c} \cdot \vec{p} \leq 8$$

$$\therefore 4 \leq |\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2 \leq 8$$

ここで,  $\vec{c} = \vec{p}$  のとき  $\theta = 0^\circ$  であり,  $\vec{c} = -\vec{p}$  のとき,  $\theta = 180^\circ$  である. したがって, 等号が成立する  $\theta$  が存在するので, 最大値・最小値は存在する.

ゆえに、求める最大値と最小値は、

$$\begin{cases} \text{最大値} & 8 \\ \text{最小値} & 4 \end{cases} \dots\dots(\text{答})$$



**解説**

(1) は  $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} = \vec{0}$  に気付けるかどうかポイントです。正三角形であることは、重心と外心と内心は一致することを覚えておく必要があります。(2) では、AB が球の直径になることに気付いてさらに  $\vec{a} + \vec{b} = \vec{0}$  を利用するという考えが必要です。ちなみに本問の設定は空間ですが、実際は平面の知識があれば十分解答できます。空間を意識しすぎると(2) が難しく感じるかもしれません。また、最後の部分で等号が成立するための  $\theta$  がきちんと存在するかどうかを吟味することは非常に大切なので、忘れないようにしましょう。